

特定第3種漁港 銚子漁港事業概要図

【これまでの取組】

- 銚子漁港は、10年連続水揚量日本一になるなど、生産と流通の拠点となる重要な漁港であり、引き続き、その役割を十分果たせるよう機能強化を進める必要がある。

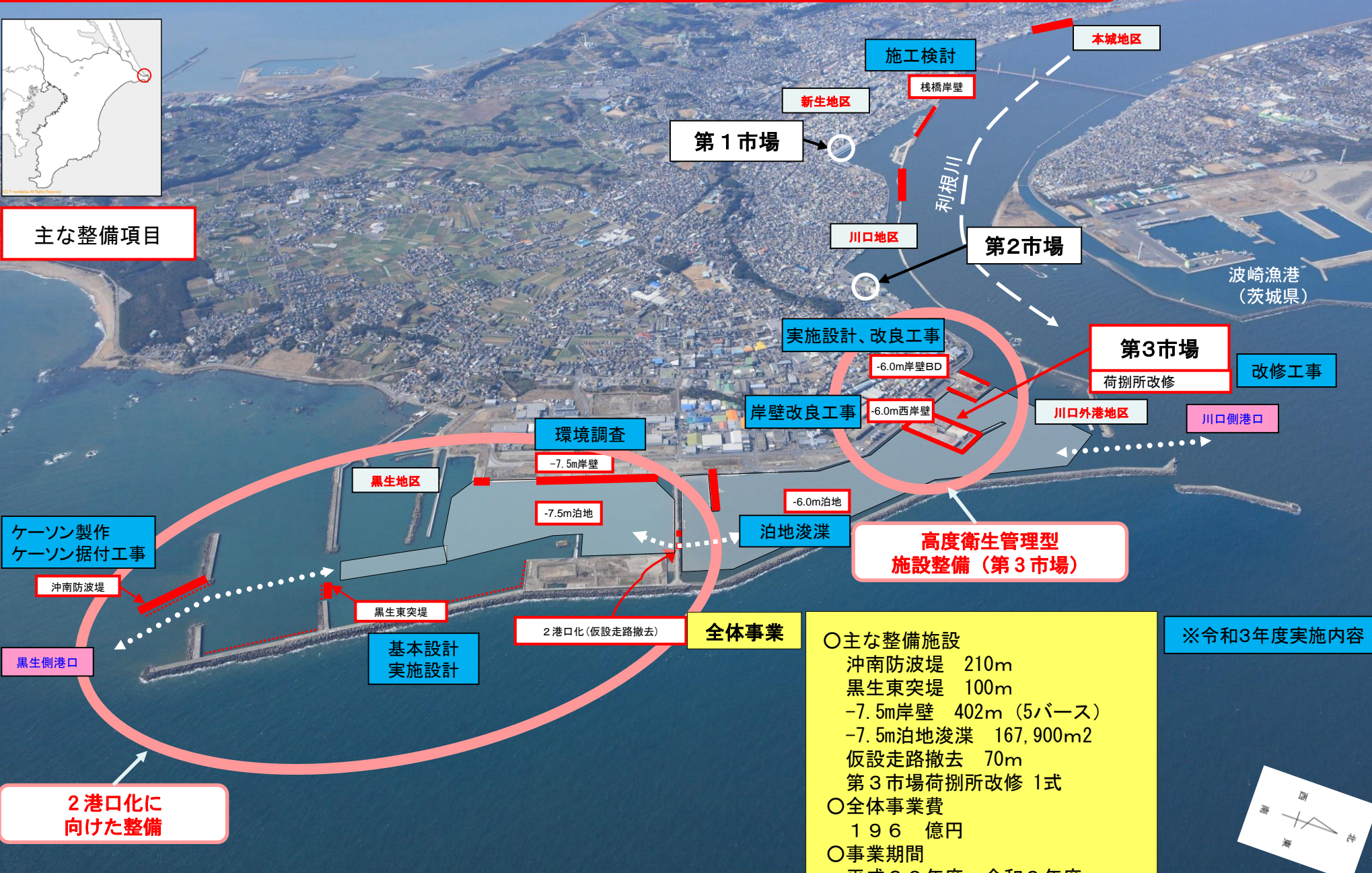
漁船の大型化や食の安全性の向上など、漁港を取り巻く環境が変化していることから、地元ニーズにもあった「事業計画」を平成30年度に策定し、施設整備を進めている。

【今後の取組方向】

- 漁船の大型化が急激に進んでおり、地元漁協などから早期整備の強い要望があり、黒生地区の7.5m岸壁の整備を優先的に行うこととし、現在、泊地の静穏度を確保するための防波堤の整備などを実施している。
- 一日も早く大型漁船が安心して円滑に水揚げできるよう、整備を推進していく。



主な整備項目



ケーソン製作
ケーソン据付工事

沖南防波堤

黒生側港口

2港口化に向けた整備

基本設計
実施設計

2港口化(仮設走路撤去)

全体事業

- 主な整備施設
 - 沖南防波堤 210m
 - 黒生東突堤 100m
 - 7.5m岸壁 402m (5バース)
 - 7.5m泊地浚渫 167,900m²
 - 仮設走路撤去 70m
 - 第3市場荷捌所改修 1式
- 全体事業費
196億円
- 事業期間
平成30年度～令和9年度

※令和3年度実施内容

